

C-65 人体外形の非対称性(第1報) 序論, 女子学生について
鹿児島県立短大 ○茅野艶子 伊地知寛子

目的 人体外形における対称性の部位について、左右の測度を計測し、非対称性に関する個体差・年齢差・性差・環境差などについて検討を試み、左右差のもつ意味を考察する。今回は健康な女子学生90名(18才~20才)の計測を行ない、おもに個体差について観察した。

方法 計測用具は、マルチン人体測定器、試作した直角尺ならびに体重計2箇を使用した。研究項目は、長径11項目(身長、頸椎高、肩峰高、中指尖高、上前腸骨棘高、前胸高、足長、脇胸囲点高、腕の長さ、全頭高、脇丈)、周径6項目(胸囲、胴囲、腰囲、頸付根囲、腕付根囲、手くび囲)、幅径3項目(肩峰幅、乳頭間幅、胸部横径)、肩傾斜角度、片側体重、水平面における後正中線からの距離3項目(踵点距離、脇胸囲点距離、肩峰点距離)である。被検者の姿勢は、安静直立姿勢による。片側体重の測定は、2箇の体重計を併置し、両体重計の外側足型しるしの上に被検者の片足ずつをのせて立たせ、姿勢を正してから測定を行なった。後正中線からの距離の測定方法は、あらかじめ足型および基線(左右の踵点を結ぶ直線)を記したケント紙(個票)を計測台上に置き、その上に被検者を立たせて各部位からの垂直投影点を記入し、後正中線と基線との交点からの距離を計測した。

結果 肩峰高では、左右同高の頻度14.4%、右<左48.9%、右>左36.7%である。肩傾斜角度では、被検者の約68%に左右差がみられ、右肩下りのものに左右差の大きい個体が目立つ。片側体重では、被検者の約80%に左右の偏りがみられる。